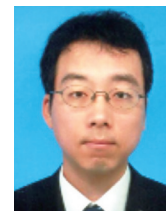




アメリカ文学の教育利用



語学教育研究センター
常勤講師

前屋敷 太郎

研究シーズの紹介

これまでマーク・トウェインの作品群から、彼の倫理的、哲学的、神学的思想は定義づけることが不可能だとされてきた。しかしながら、本研究では、トウェインの作品群の根底には、(抵抗姿勢)の要素が見受けられるとし、トウェインの人生哲学は定義づけることが可能だとする見解を示す。「抵抗姿勢」

という観点から俯瞰すれば、彼の作品や思想は明快に論述することができるということを提示し、先行研究では明示されていない、トウェインの思想を視覚化させることが本研究の目的である。例として、トウェインの推進する教育が当時の学校教育の方針に逆行(抵抗)することを示す。



進歩主義教育 (自立学習)

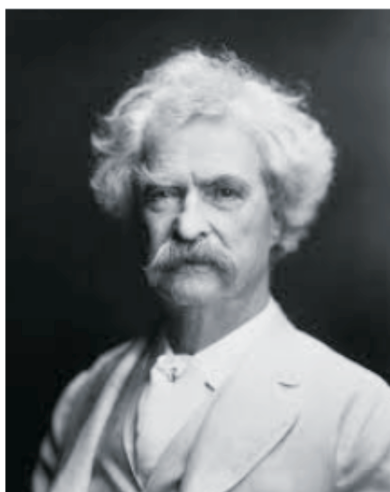
- トウェインの教育方針を今の教育の参考にすることが可能です。
- 自立学習は現代の教育に役立てることができます。

自立学習

自然の中で学ぶ

経験から直接学ぶ

トウェインの作品の登場人物ハック・フィンのは今現代の「学び」に知見を与えてくれている。



トウェインの推奨する19世紀の教育方法(進歩主義教育:アクティブラーニングのような教育方針)が今見直されている。19世紀は詰め込み型・暗記型の教育が中心であったが、進歩主義的教育は画期的な発想に基づいている。

期待される活用シーン

- 学校の現場(教育現場)



教育の質と向上

- 教育機関



教育の現状と展望。教育機関の在り方

その他の研究テーマ

マーク・トウェインのハック・フィンとジャン=ジャック・ルソーのエミールに関する研究
マーク・トウェインのユーモアについての研究